

長池公園で撮影された夜の生きもの編



『ひとまちみどり由木』が管理する81ヶ所の公園には、多様な動植物が暮らしています。このコーナーでは、管理作業や巡回の折に出会った動植物について、その際に撮影した写真とともにご紹介していきます。

夜の長池公園で最もよく写っている生き物は、**ホンダタヌキ**、**ニホンアナグマ**、そして**ハクビシン**です。彼らは全く別の種類（※タヌキはイヌ科、アナグマはイタチ科、ハクビシンはジャコウネコ科）でありながら、夜間、拾い食いをしながら緑地から緑地へ移動していくことなど、共通点も多いことが分かってきました。同じけもの道を利用していることも、興味深い事実です。このことは、それぞれの動物が‘ニュータウン生活に順応した結果’なのかもしれません。



ホンダタヌキ



ニホンアナグマ



ハクビシン

以前から、来園者による目撃情報はあったものの、公園スタッフは出会えないでいる**ニホンイタチ**が撮影されました。写真に写る、鮮やかな黄金色の毛並としなやかで細長い胴体は、まさにイタチの特徴です。魚のいる水辺を好むため、長池の周辺を行動圏としていることが分かりました。いつか、生で遭遇してみたいものです。なお、普段は姿を見ない夜行性の**アカネズミ**も、センサーカメラでは度々確認されています。



ニホンイタチ



アカネズミ

なんと、ペット由来の特定外来生物である**アライグマ**が複数個体写りました。一見するとタヌキと見間違えてしまいそうですが、顔の模様が異なり、尻尾には独特の縞模様があります。他の生物や生態系への影響を考えると、駆除対策を検討しなければならないようです。

2010年頃に、公園スタッフが特別保全ゾーン内でたった一度目撃して以降、記録の無かった**ヤマシギ**が、ついにセンサーカメラによって捉えられました。この辺りで見られるのは秋冬限定で、その名のとおり、山間の水辺や藪の中に生息する珍しいシギです。両目が真横に付いており、360°見渡せるそうです。これにより、野良猫やオオタカなどの外敵もすぐに発見することができます。

深山幽谷で繁殖し、秋になると丘陵地の雑木林まで渡ってきて冬を越す**トラツグミ**。ここ最近では毎年その姿を見かけますが、センサーカメラにより今年も既に渡ってきていることが判明しました。それにしても、この写真の倒木には色々な野鳥が止まります。周りを見渡すのに都合が良いのでしょうか？



アライグマ



ヤマシギ



トラツグミ

センサーカメラの常連、**コジュケイ**はいつも家族で行動しています。夏場には、『真っ黒くるすけ』のような全身黒づくめのヒヨコを連れていましたが、秋にはご覧のとおり、大人顔負けの羽毛に生え変わっていました。顔つきも、以前より凛々しくなったような気がします。



コジュケイ

2018
3/18 (日) 9:30-12:00
ひみつの野生動物
たんけんツアーin堀之内
開催します！
ぜひご参加ください ^^
動物たちに出会えるかも？



2/1より
予約開始